

Re:Birth

～私たちが復興を知った日～

鶴ヶ島清風高校修学旅行（震災学習）の取り組み

問合先 市政情報課広報広聴担当

鶴ヶ島清風高校の修学旅行が10月28日から31日に行われました。この修学旅行は「震災学習」をメインに据えたもので、宮城県仙台市、多賀城市、石巻市、松島町、南三陸町の役所・事業所など57ヶ所に3～4人の生徒が訪問して震災の様子や復興状況を取材しました。震災の講演を全体で聴くことはあっても、生徒3～4人のグループで取材するという取り組みは前例がないと地元の人の話しです。

この修学旅行（震災学習）では、震災の後に生まれ変わっていく東北の街、人を知り、また自らが大人として社会に出て何ができるか、この旅行を機に考え、自らもまた社会人として生まれ変わることを目指しました。

修学旅行だけの取り組みではなく、旅行の前と後にも企画を立て、実行しました。

旅行前には、修学旅行モニュメントとして直径8m高さ3mの誕生日（Re:Birthday）ケーキを作成しました。カットケーキの背の部分に、1人1人が修学旅行でやることを書き、写真付きで貼りました。

旅行後には2つのことが行われました。1つは「震災学習報告会」として、11月12日に代表生徒による発表等が行われました。



修学旅行モニュメントの誕生日ケーキ



取材地 河北新報社（仙台市 新聞社）にて

2つめは11月20日に「Projection Mapping Re:Birth」として生徒たちが現地で感じた震災・復興・未来に向けた思いなどをプロジェクションマッピングの映像に載せて表現しました。

同時に、生徒たちが感じた思いを言葉にし、その言葉を集めて一つの歌詞を作り、鶴ヶ島清風高校卒業生の二人組デュオのサスケが作曲し、オリジナルの楽曲を発表しました。



震災学習報告会

「未希の家」を訪ねて

南三陸町の防災対策庁舎から防災無線で町民に避難を呼びかけ続け、津波の犠牲になった町職員遠藤未希さん。未希さんのご両親が経営されている民宿「未希の家」を訪れました。



民宿「未希の家」にて

取材を終えて

「未希さんの話をされているお母さんの目には光るものがあり、自分ももらい泣きをしそうになりました。実際に、未希さんの避難の『呼びかけ』を聞かせてもらった時は、鳥肌が立ち、未希さんのおかげで大勢の人が助かったのだと思いました。当たり前は、いつ当たり前でなくなるかわからないので、一日一日を大切にしていきたいと思いました。」

取材先 鶴ヶ島清風高校2年 中迫 優美



校舎に映し出されたプロジェクション・マッピング

※プロジェクション・マッピング（英語名：Projection Mapping）とは、パソコンで作成したCGとプロジェクターの様な映写機器を用い、建物や物体、あるいは空間などに対して映像を映し出す技術の総称をいう。